



## 運送事業者が取り組むべきドライバーの健康管理のポイント

# 安全運転のために 目の病気を早期発見

健康起因事故は重大事故につながりやすく、運送事業者はドライバーの健康状態を良好に保ち、安全確保に向けて取り組まなければなりません。ドライバーだけでなくその家族のためにも、病気の兆候を見逃さず事故を未然に防止する必要があります。

事故防止策として、国土交通省の「事業用自動車の運転者の健康管理マニュアル(以下、マニュアル)」に沿って運送事業者によるドライバーの健康増進・管理について紹介します。

今回は「目の健康と安全運転」をテーマに、運転に影響を及ぼすおそれのある眼疾患とその対策について、東京海上日動リスクコンサルティング株式会社の花島健吾上級主任研究員に解説してもらいます。

### 交通事故のリスクが高まる「緑内障」

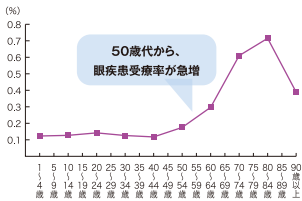
マニュアルの中で眼疾患は運転に影響する疾病のひとつとして挙げられているものの、その危険性や対策についてはあまり触れられていません。今回はマニュアルの番外編として、運送事業者において近年注目を集めている、眼疾患による運転への影響にフォーカスします。

2017年、警察庁は「高齢運転者事故防止対策に関する提言」の中で視野障害による運転リスクについて言及しました。下記のグラフの通り、眼及び付属器の疾患によって医療施設を受診される方は、40歳代から増えはじめ、50歳代以降は急激に増加します。これは、ドライバー職の中核を占める年齢層に当てはまります。また同提言では、視野障害による運転リスクについても言及しています。例えば、日本人の失明原因の第1位に挙げ

られる疾病の「緑内障」。これは、眼圧の上昇などによって目で見られた情報を脳に伝える視神経が障害を受け、視野が部分的に欠けたり狭くなったりする病気です。しかし中心の視力は保たれることが多く、また片方の目で病気が進んでも、もう片方の目で視野を補うため、かなり進行するまで病気に気が付かないおそれがあります。そして、このような視野障害をとまぬ疾患の多くは自覚症状が無いまま進行し、気が付いた時には信号機が認識できなくなるといった交通事故のリスクが高まるということが指摘されています。さらに緑内障を罹患すると、正常な人に比べて約7倍、自動車事故を起こしやすくなるという研究成果も報告されています。\*

\*Haymes SA, et al, Risk of falls and motor vehicle collisions in glaucoma, Invest Ophthalmol Vis Sci 2007;48:1149-55.

年齢区分別眼疾患受療率



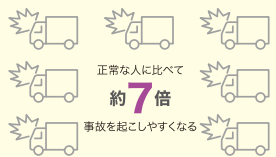
出典：厚生労働省「眼及び付属器の疾患の受療率(患者調査)」より  
東京海上日動リスクコンサルティング(株)作成

緑内障による視野欠損のイメージ (片目で見えた場合)



\*見え方はイメージであり、個人差があります。

出典：サンテン・オプティビュー



花島健吾 (はなじまけんご)

東京海上日動リスクコンサルティング株式会社 運輸・モビリティ本部 運輸チーム チームリーダー 上級主任研究員 博士(工学)、  
旅客・貨物運送事業者を中心に安全管理体制向上コンサルティングに従事、各地方バス協会、地方トラック協会等で講演多数。

### ドライバー職を続けるために、早期発見・早期治療

緑内障で失われた視野は元に戻ることはありません。しかし早い段階から治療を開始し継続すれば、視野が欠けるスピードがゆるやかになり、多くの場合は生涯にわたって視野を維持することができます。仮に発症しても早期に発見することで、適切な治療を続けながら職業ドライバーとしての職を全うできる可能性

も高くなります。

また「白内障」「加齢黄斑変性」「ドライアイ」なども運転に影響を及ぼすおそれがあります。これらも早期発見・早期治療が重要です。

### 運転に影響を及ぼすおそれのある眼疾患

白内障	水晶体たんぱく質が変性して濁り、光がうまく通過できなくなるなどして網膜にはっきりとした像が映らなくなるため、物が二重三重に見えたりかすんで見えたりする疾病
加齢黄斑変性	網膜の中心部にある黄斑が加齢とともに障害を受け、物がよく見えなくなる疾病
ドライアイ	涙量の不足や涙の質が低下するなどして、目の表面に涙が均等にいきわたらなくなり、物がぼやけて見える疾病

ドライアイによる視機能低下の例(イメージ)



参考：参天製薬株式会社「40代以降に増えてくる目の病気」  
図の出典：参天製薬株式会社ホームページ「目の情報ポータル 目の病気百科 ドライアイ」

### 定期的な検診やセルフチェックで対策を

眼圧測定などで、ある程度は目の疾患のリスクを洗い出すことは可能ですが、それでも十分とは言えません。また、現行の高齢者講習における水平方向の視野検査のみでは視野障害を正確に判断することは困難です。

緑内障をはじめとする、目の疾患のリスクが高まる40歳代以降においては、自ら定期的に予防に向けて取り組んでいくことが

大切です。健康診断で少しでも異常が見られたドライバーに対しては、専門家への受診を勧めましょう。さらに、「眼科での総合的な検査の受診」や「薬局などで配布されているセルフチェックツールの活用」を積極的に推奨することも欠かせません。その際にも、「早期発見で適切に治療すれば、長くこの仕事を続けられる」という前向きなメッセージも合わせて伝えることが重要です。

目の病気や目の症状別でセルフチェックが行える「目の情報ポータル」[目の情報ポータル](#)

## ドライバーに定期的な眼科検診を促し、目の病気の早期発見を

### 日野自動車は、先進の安全性能で事故を未然に防止

#### 〈可変配光型LEDランプ※〉ハイビームを自動制御し、夜間の安全運転をサポート。

LEDの点灯と消灯を細やかに制御し、先行車、対向車に光が当たる箇所だけを自動的に遮光。夜間の走行でハイビームを使用しやすくなります。また、夜間の歩行者を発見しやすくなり、「ヒヤリ」の低減に貢献します。



※日野プロフィア、日野レンジャーに設定(一部車型はオプション)

※道路状況、車両状態、天候状態によっては作動しない場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 \*詳しくは、取扱説明書をご覧ください。